

緩和の観点

適応の観点

自然減、社会減の両面から、粘り強く継続的に取り組み、**人口減少のスピードを緩和。**

現在より少ない人口でも、一人ひとりが幸せを実感でき、経済的にも精神的にも豊かで安心して住み続けられる地域を創るとともに、活力ある社会・経済を構築。

課題	方向性（想定される主な対応策）	緩和の観点	適応の観点
①少子化	<p>誰もが将来に希望を持ち一人ひとりの可能性を発揮できる社会、結婚したい、子ども産みたい、育てたいという希望がかなう環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性、若年層の所得向上・雇用の安定（特に女性の正規雇用機会の拡充） ● 共働き共育ての推進（家庭と仕事の両立、社会・職場の意識改革、職場の環境整備） ● 結婚を望む方への応援強化 ● 妊娠・出産・子育て支援の強化（環境整備、経済的負担軽減、社会全体の気運醸成） 	<p>少子化の流れを変え、人口減少のスピードを緩和</p>	
②女性・若年層の転出超過	<p>女性や若者をはじめ、多様な人材を惹きつける「仕事」と「地域」を創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性、若年層の所得向上・雇用の安定（特に女性の正規雇用機会の拡充）【再掲】 ● ジェンダーギャップ、性別役割分担意識、アンコンシャスバイアスの解消 ● 女性にとって働きやすい多様な雇用先・職場を地域に創る ● 地域の魅力を高めるとともに、女性や若者が活躍できる地域を創る（社会的起業の促進や地域と関わる機会の創出） ● 優位性やポテンシャルを活かした産業（仕事）の創造 ● 教育環境の充実（子育て世帯の呼び込み・定着） ● ターゲットに応じた移住施策の推進、U I J ターンの推進、関係人口の創出・拡大 ● 地域おこし協力隊の呼び込み、定着 	<p>少子化の流れを変え、人口減少のスピードを緩和</p> <p>道内各地域（特に女性・若年層）における社会減を抑制し、人口減少のスピードを緩和</p>	<p>人口減少下においても、一人ひとりが幸せを実感でき、豊かで安心して住み続けられる地域を実現</p> <p>人口減少下においても、活力ある社会・経済を構築</p>
③人口の札幌一極集中・地域偏在	<p>過度な人口集中・偏在を緩和し、持続可能な地域づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 札幌のポンプ機能の強化 ● 札幌・道央圏が有する機能の道内各地域における活用、大学と地域の連携、学生が地域に関わる機会の拡充、半導体・デジタル関連産業による効果の全道への波及等 ● 地域の中核都市のダム機能の強化（圏域機能の強化、広域連携の推進） ● 各地域における①～⑧の施策の実施 		
④外国人の受入	<p>外国人に選ばれ、安心して働き暮らすことができる環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多言語に対応した相談対応の充実 ● 日本語学習機会の提供、市町村の外国人受入に関する対応力の強化、多文化共生社会の形成 ● 地域の企業等における外国人受入環境づくりへの支援 	<p>外国人材の受入れを拡大し、人口減少のスピードを緩和</p>	<p>増加する外国人が地域の一員として安心して暮らし働ける地域社会を形成</p>

重点的に取り組むべき事項の方向性について

課題	方向性（想定される主な対応策）	緩和の観点	適応の観点
⑤地域の維持 ・暮らし ・生業 ・コミュニティ	人口の規模や構成に適応した持続可能な地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ● デジタルとリアルの融合による地域における医療・福祉、交通・物流、買い物、教育等の日常生活に必要な機能の維持・確保 ● 一次産業の振興による生産基盤の維持、地域の経済・雇用を支える中小・小規模企業の振興 ● 地域相互の連携・補完の推進等の広域連携による持続可能な地域づくりの推進 ● コミュニティや集落の維持に向けて、地域運営組織、特定地域づくり事業協同組合、社会的起業等、地域づくりに参加できる仕組みの構築 ● 全ての人がお互いに支え合い、役割を持って自分らしく活躍する地域共生社会の実現 ● 様々な自然災害リスクに対応し安全・安心で強靱な地域づくり 		地域の暮らしやコミュニティの維持のため、デジタルの活用や地域相互の連携・補完等により、持続可能な地域づくりを推進
⑥人手不足	多様な人材の労働参加の促進 <ul style="list-style-type: none"> ● 若者、女性、高齢者、障がい者、長期無業者等の労働参加の促進 ● 外国人を含む多様な人材を活用するダイバーシティマネジメントの推進 ● 協業化、共助、兼業、副業、マルチタスク等「一人多役」の推進 ● リカレント教育、リスキリングの推進 人材の確保対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 各分野毎の人材確保対策の強化、地域偏在の解消（医療・福祉、運輸、建設、サービス等） 産業・暮らしにおけるDXの推進等による生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 産業や暮らしなど、あらゆる分野において、AI・デジタルの活用による生産性の向上、高付加価値化、労働力不足解消 	道内各地域（特に女性・若年層）における社会減を抑制し、人口減少のスピードを緩和 外国人材の受入れを拡大し、人口減少のスピードを緩和	各地域の人手不足に対応するため、多様な人材の労働参加の促進などの量的対策と、AI・デジタルの活用による生産性向上などの質的対策を推進
⑦社会・経済の活性化	本道の優位性、ポテンシャルを活かした産業の創造 <ul style="list-style-type: none"> ● 国内外から求められる魅力的で質の高い食を持続的に生産 ● ゼロカーボン北海道の推進による環境と経済・社会の好循環 ● デジタル関連産業の一大拠点の形成による暮らし・経済の発展 ● 持続的に発展する世界トップクラスの観光地づくりによる交流人口の拡大 ● ものづくり産業・健康長寿産業・宇宙航空産業の振興 ● スタートアップの創出・集積、優位性を活かした企業立地の促進 ● 地域経済循環の推進 		人口減少下においても、活力ある社会・経済を構築
⑧人権や多様性の尊重	人権や多様性が尊重され誰もが活躍できる包容力のある社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> ● 女性や子ども、高齢者、障がいのある人、性的マイノリティ、外国人など、全ての人の個性や人格、多様性が尊重される地域社会づくりを推進 		人口減少下においても、一人ひとりが幸せを実感でき、豊かで安心して住み続けられる地域を実現

重点的に取り組むべき事項の方向性について

課題	第3回 WGにおける主な意見
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○参加しない女性や道外に行ってしまった若者が良くないというメッセージにならないよう、みんなで一緒にやるということが伝わるようなメッセージが必要。 ○人々の価値観やライフスタイルの変化を掴み損ねている懸念があるので、既存の意識をまずは変えていかなければ、時代に合った施策というものはできない。 ○緩和策と適応策を完全に分けるのは難しいため、それぞれ両面から対応することが必要ではないか。
①少子化	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚や子供を生み育てたいと希望を持てる社会にすることがまず先で、今は望めない社会になっているのではないか。若者、女性、障がいを持った方達の想いと、既にギャップがある懸念があるため、当事者の声を的確に掴む中で進めていくことが必要。 ○自分の選びたいライフコースが選べ、希望をかなえるという包含的な概念の方が良い。この流れの延長として、結婚したいが今の状況では無理だというバリアを崩すという表現ができると良い。
②女性・若年層の 転出超過 ③人口の札幌一極 集中・地域偏在 ④外国人の受入	<ul style="list-style-type: none"> ○優先順位を考えると、「多様な人材を引きつける仕事と地域」をまず創っていくということが非常に大事。そのためには、関係団体や大学も含めた色々な知恵が加わっていくということが大事で、その結果、外国人、若者、女性に認められ、可能性を感じて来ていただける流れになると思う。また、働きたいという希望を支える色々な制度を作っていくことが必要。 ○地域を出入りする人は、どの市町村にも毎年一定数いることを認識し、どうして来てくれたのかという要因を探ることが大事。出入りの流れを絶やさないことが重要だという認識もあっても良い。年齢、性別、前住地等の属性により要因が異なっており、対象によって、どんな施策を打ち出すと効果的か、属性をしっかりと絞って、移住政策を実施することが大事。
⑤地域の維持 ・暮らし ・生業 ・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事と地域を創る前提として、安全というキーワードがあったほう良いと思う。安全安心な基盤があって、そこで、新たな仕事、地域が創られていって、そこに色々な人が集まってくる、そういったストーリーが描き出されると良い。 ○人口が減少する中、一番身近なところで医療を受けられることができることや、可能な限り住み慣れた所で人生の最後を送りたいという希望を叶えるがあるため、医療、福祉といったキーワードを、明確に打ち出したほうが良い。 ○地域の生産基盤を維持することが、日本を支え、世界を変えていくことに繋がる。
⑥人手不足	<ul style="list-style-type: none"> ○人材の確保対策では、医療、福祉といったキーワードを、明確に打ち出したほうが良い。 ○総論としては、どの分野も人が欲しいということになるが、分野別に切り分けて、医療や教育など、デジタルを活用するなど、今までになかった手法で解決するようなチャレンジする領域もあえて作り、打ち出していったらどうか。 ○一人多役の推進等については、女性の負担が多い中で、更に女性の負担が増えるというメッセージにならないか懸念。
⑦社会・経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少下の適応策を考える時、観光についても、それ以外もそうだと思うが、外から呼び込んで、落とさせていただいたお金に関して、いかにそれを道内にきちんと留めるか、道内で完結させるかという域内調達や地産地消という観点がものすごく重要で、新戦略に向けた方向性に加えると良い。 ○サステナブルの観点でいくと、エネルギーでは、ゼロカーボン社会を創るためのインフラづくりや、エネルギーの供給、モビリティや物流も含めて、置き配をもっと推進するといったような、社会全体の行動様式の変容を促せるようなメッセージも必要。
⑧人権や多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイバーシティが北海道の本来の魅力。多様性を受け入れ、自由で懐が広いといっためざす姿を滲み出せると、関係人口も含めて、北海道が魅力的な土地になる。